

航翔会平成 28 年度同巢会開催

航翔会は、3月5日(土)、厚木航空基地において、平成28年度の同巢会行事を開催した。航翔会とは、海上自衛隊航空学生として入隊した時点で、自動的に会員になる「同巢会(どうそうかい)」である。学校であれば入学と同時に同窓会員となるが、航空学生はあくまでも課程であるので、同じ巢で育った者の会という意味で「同巢会」と名付けた。

航翔会では、毎年1回、海自航空基地の所在地で同巢会行事(総会及び支部主催懇親会)を開催することとしており、一昨年の下総、昨年の館山に続き、今年度は、航空部隊の中心である厚木航空基地で開催した。

当日は、快晴の下、航空学生1期から63期生まで、現役約100名、OB約100名、総勢約200名の参会者を得て、午前10時基地内の慰霊碑参拝から同巢会行事を開始した。

第4航空群、第51航空隊及び第61航空隊のご協力を頂き、基地見学の中で、最精鋭のP-1、SH-60K及びC-130Rを、現役会員の説明により間近で見学できたことは、中途退官者のもとより、年寄りのOBらも大感激の経験となった。

基地見学の後は、基地隊会議室にて、28年度総会を実施し、前年度の活動実績と、28年度の事業計画等を参会者に報告した。参加者は全クラスに渡っており、それぞれが各同期生総員に連絡することとなっている。

総会に引続き、「P-1による英国等紀行」の演題で、定年退官したばかりの航学32期生の杉本和隆氏による講演を実施、戦後初の欧州等への画期的フライト談に、皆感激ひとしおで聞き入った。この講演に続き、航空集団司令官 眞木信政海将より、特別講演として「航空学生出身者に期待するところ」の演題で、「①術科を担える人材、②外交的役割を担える人材、③3戦(世論戦、心理戦、法律戦)を担える人材」と、3つのお言葉を頂き、OBも襟を正して、拝聴した。

その後、場所を懇親会場に移動し、空団司令官を始め、厚木航空基地の指揮官等皆様のご参会を頂き、厚木支部主催の懇親会が開催された。会員らは、かつての「お前何期だ!」と言う古き良き時代の徒弟制度を払拭し、先輩からは自慢話ではなく後輩の勤務参考となる経験談等を、後輩からは萎えかけてきた先輩の心に熱き今を語り、元気を注入するなど、先輩後輩入り混じって、有意義な意見交換の場となった。

懇親会閉会前に、次年度は、東京支部主催で東京近辺に勤務する現役への応援を企図した、水交会(原宿)での同巢会開催が紹介され、締めは、恒例となってきた参会者の最後任期(63期生5名)の指揮による隊歌訓練「航空学生の歌」を唱和し、気合の入った一本締めで、日が暮れ始める前に、大盛会のうちに閉会した。

引続き厚木航空基地近傍の大和駅周辺では、各同期会の熱き語らいが夜遅くまで続き、航翔会は、本会関係の皆様のご支援、ご協力により、お陰様で熱き心を燃え上げられ続けることができました。感謝深謝であります。(星航翔会副事務局長 記)